

ミュージアムの国内外の事例一覧

1. 所蔵品以外を特徴としている海外の博物館の事例

	博物館名	概要
体験を重視	アメリカ自然史博物館 所在地：アメリカ、ニューヨーク 概要：科学博物館 オープン：1869 年	・映画「ナイトミュージアム」の舞台となっている。 ・設立に際し、土地と建物はニューヨーク市が提供したが、運営資金は多くの市民の寄付で賄われた。 ・巨大な恐竜の骨格や模型、世界最大級の隕石など、実際に大きさを感じる体験型展示が中心。 ・ガイド付きツアーや大人のお泊り会など、展示以外にイベントや活動も豊富に楽しめる。 https://www.amnh.org/
空間・建物に特徴がある	テート・モダン 所在地：イギリス、ロンドン 概要：国立現代美術館 オープン：2000 年	・かつてバンクサイド発電所だった建物を利用して作られ、煙突が特徴の外観になっている。 ・とにかく建物が巨大で、吹き抜けの展示場などがあり、建物自体も見どころ。巨大なスペースを活用して独特な展示を行っている。 ・建物内は、7 階建ての本館「ボイラーハウス」と 11 階建ての新館に分かれる。 https://www.tate.org.uk/visit/tate-modern
	ミラノプラダ財団美術館 所在地：イタリア、ミラノ 概要：プラダ財団による近代美術館 オープン：2015 年	・1910 年代に蒸留所として使われていた建物を改築して作られた。 ・1 万 9000 m²の巨大な敷地は 11 に分かれた連結式の建築構造から成り、かつての蒸留所の保存と新しい創造が共存し相互作用するというコンセプトになっている。 ・オランダ人建築家レム・コールハース率いる OMA がデザインを手がけた建築複合施設自体もみどころとされる。 https://www.pradagroup.com/ja/perspectives/sponsorships/fondazione-prada.html
メッセージ性がある	ナショナル 9/11 メモリアル&ミュージアム 所在地：アメリカ、ニューヨーク 概要：アメリカ同時多発テロ事件の公式追悼施設 オープン：2014 年	・2001 年 9 月にニューヨークで起こったアメリカ同時多発テロ事件の悲惨さや、救助者の活躍など、9.11 の真実を今に伝えていくための博物館。 ・テロが行った背景などを詳細にまとめた展示をはじめ、犠牲者の写真や名前の展示、当時の姿を残す階段、飛行機の突撃により曲がった鉄筋などの実物、また逃げまどう人の映像など、リアルな状況が胸をうつとされている。 https://www.911memorial.org/

	博物館名	概要
	アンネ・フランクの家 所在地：オランダ、アムステルダム 概要：アンネ一家の隠れ場を利用した博物館 オープン：1960 年	・「アンネの日記」で有名なドイツ系ユダヤ人アンネ・フランクがナチス占領下のオランダ・アムステルダムで2年間身を潜めた隠れ家を利用した博物館。 ・当時の生活が忍ばれる物がそのまま保存され、隠れ家に通じる入口を隠した回転式の本棚や「アンネの日記」を綴った屋根裏の部屋もあり、戦争の悲惨さが伝わってくる。 ・施設の管理はアンネ・フランク財団が行う。この財団は、アンネ・フランクを襲ったユダヤ人迫害を教訓にユダヤ人のみならず人種差別に反対する活動を行っている。 https://www.annefrank.org/en/anne-frank/who-was-anne-frank/japanese/

2. 先進的な取り組みを実施している海外の博物館の事例（地域コミュニティとの連携、収蔵品の特徴的な活用方法など）

	博物館名	概要
収蔵品をデータ化し 自由な利活用を可能に	スミソニアン博物館群 所在地：アメリカ、ワシントンなど 概要：科学、産業、技術、芸術、自然史の博物館群・教育研究機関複合体 オープン：自然史博物館は1910年	・スミソニアン協会が運営する世界的有名な博物館と研究施設で17の博物館、ギャラリー、動物園で構成される。 ・収蔵物は1億4200万点のうち約280万点（2020.3時点）の収蔵品がデジタル化され、オンラインで無料公開されており、教育・研究・創作活動に活用可能である。歴史的人物の肖像画から恐竜の骨格の3Dスキャンまで、芸術、科学、歴史などの高解像度画像や研究データを一括してダウンロードできる。 https://www.arban-mag.com/article/51752 https://washington.org/ja/smithsonian-institution-museums
収蔵品を活用した地元の子供向けWSを開催	ヴィクトリア&アルバート博物館 所在地：イギリス、ロンドン 概要：国立博物館 オープン：1852年	・分館「Young V&A」では、子どもや若者、家族が想像し、遊び、デザインできる博物館をめざし、子どもや若者がワクワクするプログラムやワークショップを展開。 ・改装のための休館期間（3年間）も築いてきた地元コミュニティとのつながりを絶やさないため、11～22歳を対象に、博物館のコレクションと自分とのつながりをつくる企画として“タンジブル（手ざわり感のある）”な体験を企画。収蔵庫を訪ね、展示前の作品を見ながらキュレーターの説明を聞いたり、デザイナーとものを作ったり、使われた材料について学んだりして、持続可能性やデザインについて話し合った。 ・新しいギャラリーには、地域の子どもたちや若者たちが地元のメーカーやデザイナーと共同で制作やデザインをした作品が展示され、“共に”というプロセスに明確な価値を置いていることがわかる。 https://craftweek.jp/column/69793

	博物館名	概要
収蔵品をデジタル化し、商品や教材に活用するアイデアに表彰	アムステルダム国立美術館 所在地：オランダ、アムステルダム 概要：国立美術館 オープン：1852 年	・オランダ王国最大の規模を誇る美術館のひとつ。同国を中心とした 12-20 世紀の芸術と歴史を約 8000 点の作品を紹介。 ・所蔵作品を公開するデジタルアーカイブ Rijks studio では、コレクションの利活用を可能にしているほか、新たなアートの創造を促進するためデジタルアーカイブを使った商品や教材造成のアイデアを世界中から募って表彰している。 https://www.rijksmuseum.nl/ja/visit https://innovatemuseum.bunka.go.jp/cms/wp-content/themes/museum/assets/download/2025/Museum_DX_Practical_Guide.pdf
美術館の存在そのものが地域の活性化に寄与	ビルバオ・グッゲンハイム美術館 所在地：スペイン、ビルバオ 概要：グッゲンハイム美術館の分館の 1 つ オープン：1997 年	・バスク州政府が、ソロモン・R・グッゲンハイム財団に対し、ビルバオの港湾地区にグッゲンハイム美術館を建設することを提案。バスク州政府は建設費用の負担、作品の新規購入費用、展示会費用の一部や年間予算を補助している。 ・スペイン屈指の工業都市だったが、1990 年代以降衰退していたビルバオにおいて経済活性化の一環として開館した美術館は、世界中から観光客を集め、直接の経済効果だけでなく、バスク地方全体の象徴となり都市のイメージアップにもつながった。ここから「グッゲンハイム効果」「ビルバオ効果」という言葉が生まれた。 https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/shien/tyousakihou/154.files/0038_20191118.pdf
博物館が地域政策や戦略と連携	MUSE (Museo delle Scienze) 所在地：イタリア、トレント 概要：科学博物館 オープン：2013 年	・アルプスの生態系や気候変動をテーマにした展示を展開する一方で、地元の学校と連携して「自然と科学の探究」をテーマにした体験型学習プログラムを実施。 ・小学校向けの環境WSや、中高生を対象とした「科学キャンプ」など、地域の教育現場と博物館を結ぶ継続的な連携として根付く。 ・地元の農業協同組合や自然保護団体と連携して、持続可能な食と生物多様性をテーマにした公開講座や市民参加型イベントも開催。 ・博物館の取組が、地域の学校教育・環境政策・観光戦略とも結びついた、多層的な地域活性化のモデルとして高く評価されている。 https://benesse-artsite.jp/education-program.html https://www.muse.it/ https://museumstudies.jp/2025/04/18/museum-local-activation-strategy/
地域とアートが融合して地域を活性化	ベネッセアートサイト直島 所在地：日本、香川・岡山	・直島・豊島（香川県）、犬島（岡山県）を舞台に株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人 福武財団が展開しているアート活動の総称。

博物館名	概要
概要：瀬戸内海に浮かぶ離島で展開する、現代美術に関わるさまざまな活動の総 オープン：2004 年（前身の「直島文化村」は 1980 年代後半～）	・ 大小様々な空間開発とイベントが共存し、建築家やデザイナーだけでなく、一般の地域住民に至るまでプロジェクトに関与する機会が生まれている。 ・ ベネッセアートサイト直島が学校や団体、企業の様々な目的やテーマに応じて実施。（例）小学校との連携（工場や美術館を活用して作品鑑賞とワークショップを実施） http://srda.eco.saga-u.ac.jp/KSPS/2018/KSPS2018kenkyukai210.pdf https://note.com/basn_education/n/ne7ab0dfa242a

3. 国内で新設された博物館の設置意図や目的

博物館名	設置意図	方向性	目指す姿
川崎市市民ミュージアム 所在地：川崎市 概要：市民ミュージアム 2023 年度末：（仮称）新たなミュージアムに関する基本計画策定 2024 年秋頃：（仮称）新たなミュージアムに関する管理運営計画策定	《新たな博物館の必要性》 ・ 多様性に満ちた川崎の歴史と文化を未来に引き継ぐとともに、知ること、学ぶことが楽しめ、様々な交流が生まれる場を提供する地域の博物館としての役割などを担う新たな博物館が必要 《新たな美術館の必要性》 ・ 誰もが優れた文化芸術を体験・体感し、楽しむことができ、多様なつながりを創出できる場を提供するアートの中心的な施設としての役割などを担う新たな美術館が必要 《役割》 ①川崎の歴史と文化を未来へつなぐ ②文化芸術的な視点からの人材育成と学びの機会の提供 ③文化芸術を活用したまちづくり	①博物館、美術館が融合した「川崎らしい」ミュージアムとして、本市の特徴やこれまでの市民ミュージアムの活動を活かした取組や、本市を取り巻く社会環境等への対応に寄与する取組を展開し、地域や社会への貢献を図る。 ②「体験・体感」など市民が興味・関心を持ちやすいようなアプローチを積極的に取り入れ、市民に身近なミュージアムを目指す。 ③ 様々な「つながり」を創出し、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりのための取組の展開を図る。	1. 新たなミュージアムの「使命」 市民とともに、川崎の「これまで」をたどり、「これから」のあたらしい川崎を彩る 2. 目指す姿 「使命」に基づき、次の5つの「めざす姿」の実現に向けて活動していく。また、市民にとって、「日常」に彩りが加わる「非日常」を感じられ、文化芸術をはじめとした様々な世界とつながることができる場として活動していく。 ① 過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム ② モノ、ヒト、コトをつなぎ、交流を創出するミュージアム ③ 日常と文化芸術をつなぎ、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム ④ 既知と未知をつなぎ、共創を通じてともに成長するミュージアム ⑤ 地域社会の担い手となる人材を育成するミュージアム

博物館名	設置意図	方向性	目指す姿
豊田市博物館 所在地：愛知県 豊田市 概要：郷土資料を紹介する博物館 平成 29 年 3 月基本構想策定	《新博物館の必要性》 ・新豊田市としての歴史・文化の共有と、市民のアイデンティティの確立のために ・市民の学習支援充実と、学校教育との連携強化のために ・歴史・文化を活かした、市民の生きがいや地域の新たな価値・魅力の創出のために	《新博物館の使命》 ①市民と共に豊田市の歴史・文化財・自然を発見し、守り、未来へ伝える ②身近なきっかけや体験から主体的な学びを育む ③多様な人々や文化が出会う場となり、豊田市の魅力や新たな価値を生み出す	1. 新博物館の機能とめざす姿 豊田市のあゆみを物語る資料を収集・調査し、その価値・魅力を発信する ●歴史とそれに関わる文化財 ・自然を一体的に扱う県内唯一の総合博物館として、矢作川の源流から三河湾までを俯瞰した上で、豊田市の歴史と現在・未来を位置付ける。 ●貴重な資料を次世代へ継承するため、収集 ・保存、調査 ・研究、展示 ・公開など博物館の基盤機能を充実する。 博物館基盤機能＝収集・保存、調査 ・研究、展示 ・公開 市民と共に新たな価値を創造するために必要な機能＝出会い・交流機能、学習支援・創造機能、ネットワーク機能
弘前れんが倉庫美術館 所在地：青森県 弘前市 概要：市が所有する旧「吉野町煉瓦倉庫」を改修・整備した美術館 2020 年開館	明治・大正期の風情を残す遺物として弘前市民から親しまれ、さまざまな産業発展を遂げた「吉野町煉瓦倉庫」は、その役割を終えた後も再生活用の声があがり、1988（昭和 63）年に結成された弘前青年会議所の OB 会員 15 人ほどの組織「煉瓦館再生の会」と、当時弘前大学教育学部教授であった村上善男によって美術館としての再生が提案。	特 徴 ●サイト・スペシフィック（場所性） - 「創ること」「見せること」「収蔵して歴史に残すこと」 建築や地域に合わせたコミッション・ワーク（新たな作品制作）を重視し、完成した作品を展示。さらに収蔵するという一連の流れによって、弘前ならではのコレクションを形成。 ●タイム・スペシフィック（時間性） - 異なる展示のリズムと柔軟な空間の使い方 煉瓦倉庫の可能性を最大限に生かした自由で柔軟な方法で空間を運用	ミッション 弘前れんが倉庫美術館は、地域のクリエイティブ・ハブ（文化創造の拠点）となるために、活動の基盤として 3 つのミッション（使命）を設定。 1. 建築の記憶の継承と、新たな空間体験の創出 2. 地域の新たな可能性の開発と歴史の再生 3. 異なる価値観の共有と開かれた感性の育成 https://www.hirosaki-moca.jp/about/vi/

博物館名	設置意図	方向性	目指す姿
		し、年間プログラムを構成。また展示される個々の作品も、短期から長期まで、異なるリズムで展示。	
尼崎市立歴史博物館 所在地：尼崎市 概要：文化財収蔵庫と地域研究史料館の機能を統合 2020 年開館	・「城内地区まちづくり」事業の一環として、地域資産の活用と収蔵場所の確保により事業を発展的に行うため、旧城内中学校跡地への集約・移転を実施することとなった。 ・2018 年から建物のリニューアル工事を行い、文化財収蔵庫と地域研究史料館の機能を統合し、2020 年 10 月 10 日から新たに「尼崎市立歴史博物館」として開館。	①理念 尼崎の歴史文化に学び、未来に向けた新たな活動が生まれる拠点 ②方針 ・ボランティアや市民団体等が活動に参画する市民と共にあゆむ博物館 ・子どもたちの初めての博物館体験を大切にした学校教育との積極的連携 ・体験・交流型の活動や市民の歴史研究の場としてレファレンスを重視	1. めざす姿 歴史博物館では尼崎城とも連携するなど市内外に広く情報を発信し、まちの歴史に対する市民の深い理解と誇りを育むことで、市民文化の発展向上や自治のまちづくり、本市の魅力向上に寄与する 2. 特色 ・歴史的建造物である旧尼崎高等女学校校舎（昭和 13 年築）を文化財として保存・活用 ・歴史博物館、埋蔵文化財センター、公文書館（地域研究史料館）の機能を併せ持つ歴史文化の拠点 ・歴史・考古・民俗・美術等に関する資料を一括して広く収集・整理・保存し、展示・公開、教育普及、市民活動支援、調査研究の諸機能を集約 ・子どもから大人までわかりやすい展示や子どもたちが歴史体験できる場を整備 ・市民自らの歴史文化を生かした新たなまちづくり活動の創出に貢献

https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/005/829/gaiyou.pdf